令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果
ー分析から見えてきた成果・課題と今後の取組についてー

区　　名	住吉区
学 校 名	南住吉小学校
学校長名	畠中　紹宏

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和６年４月18日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・南住吉小学校では、第６学年　１３１名

学校名　南住吉小学校

令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科・算数科ともに全国平均を下回る結果となった。国語科については７．７ポイント、算数科については６．４ポイント下回った。国語科においては、「話す聞く」の内容で全国平均との差が１３．５ポイント下回る結果となった。算数科では、「数と計算」「変化と関係」の内容で約８ポイント下回る結果となった。国語科の平均無解答率は全国平均よりも低かったが、算数科の無解答率は全国平均よりも高い結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］内容別で見ると、国語科「話す聞く」は全国平均正答率との差が１３．５ポンと大きく、本校児童の苦手課題だったといえる。「書く」は差が８．５ポイント、「言葉の特徴」が７．１ポイント、「読む」が５．８ポイント、「情報の使い方」４．５ポイント差がみられた。「我が国の言語文化」は１．３ポイントとあまり差が見られなかった。他の内容もすべて下回る結果となった。
［算数］算数科「数と計算」が８．２ポイント、「変化と関係」８．１ポイント、「図形」が６．７ポイントの差がみられた。「データの活用」は差が２．０ポイントとそれほど大きな差は無かった。
　国語科・算数科とも全国平均正答率を下回っていることから、朝学習や習熟度別少人数指導の進め方についてより効果的な活用方法を図り、個に応じた学習を継続して進めていきたい。

質問調査より

朝食を毎日食べている割合は９２．２％と高く家庭での朝食をとることの重要性が定着しているといえる。自尊感情や将来の夢や目標をもつ割合が全国平均を上回る結果となっており、道徳やキャリア教育のなどに取り組んでいる成果が表れていると考えられる。また、いじめに対する意識については「いじめはどんなことがあってもいけない」と考える割合が全国以上に高く、学校全体で取り組んでいる人権教育活動や児童会活動、生活指導等で児童自らが考えて行動できるような様々な取り組みの成果の表れと言えるので、取り組みを継続していきたい。人の役に立つ人間になりたいと思いますかの質問にもほぼすべての児童が肯定的解答を行っており、児童の前向きな姿勢を今後も大切にしていきたい。

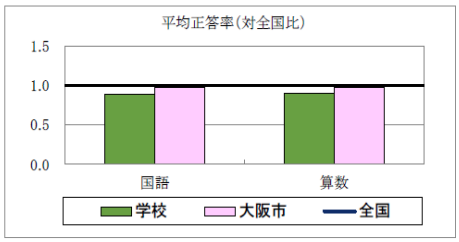
今後の取組(アクションプラン)

国語科・算数科ともに全国平均を下回ることから、引き続き基礎基の定着を目指した支援を行う。学習内容の充実や定着、家庭学習での個別支援として、デジタルドリルの活用やデータ配信教材の活用し、基礎基本の定着を図りたい。また、授業が、主体的・対話的で深い学びに沿ったものとなっているかを確認し、授業の改善に努めたい。また学力向上を図るためにも、教員が、一人一授業授業検証を行い、指導力向上をはkるとともに、学力アップコラボレーター、学びサポーターを活用し、児童の基礎基本の定着を目指したい。

【 全体の概要 】

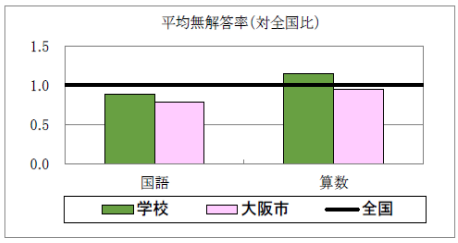
平均正答率（%）

	国語	算数
学校	60	57
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4



平均無解答率（%）

	国語	算数
学校	3.7	3.9
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

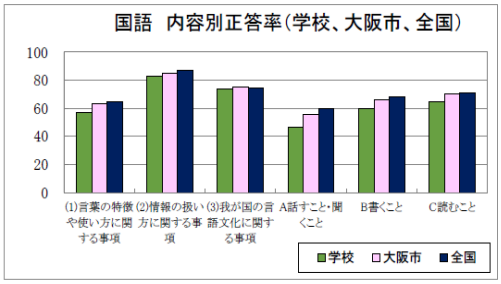


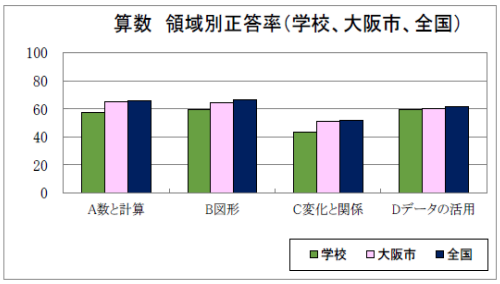
【 国 語 】

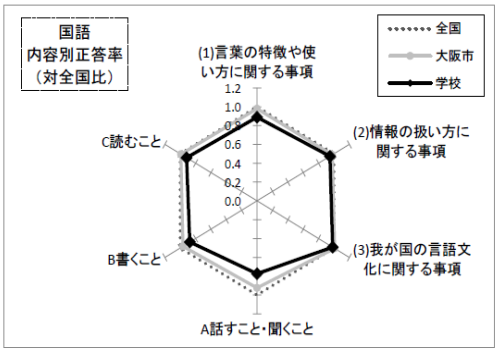
学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	57.3	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に関する事項	1	82.4	85.0	86.9
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	73.3	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	46.3	55.3	59.8
B 書くこと	2	59.9	65.9	68.4
C 読むこと	3	64.9	70.1	70.7

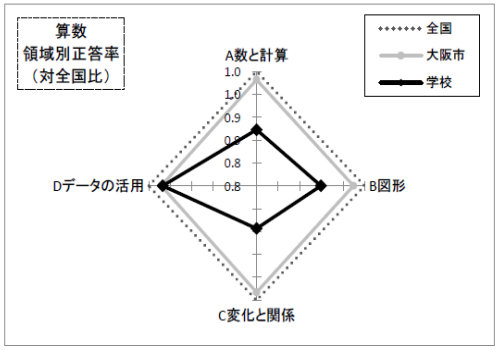
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	57.6	64.8	66.0
B 図形	4	59.6	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	43.6	50.8	51.7
D データの活用	4	59.8	60.0	61.8





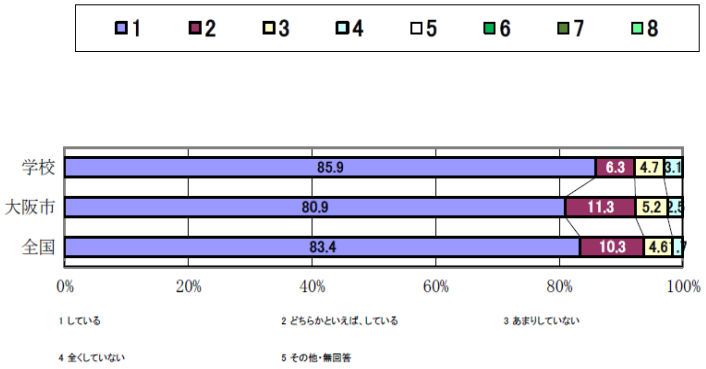




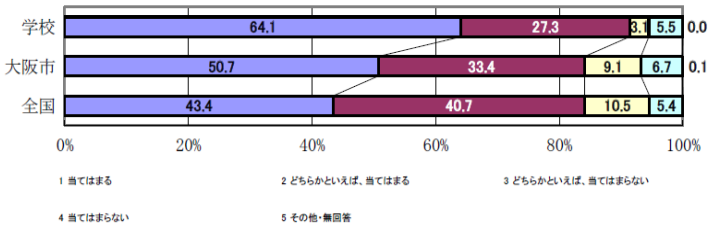
児童質問より

質問番号
質問事項

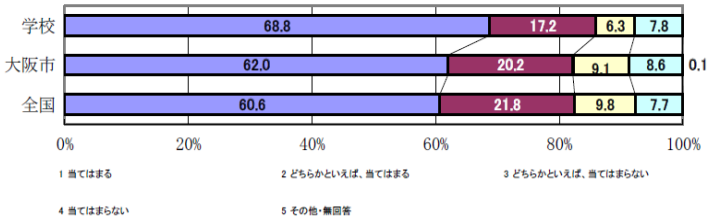
1
朝食を毎日食べていますか



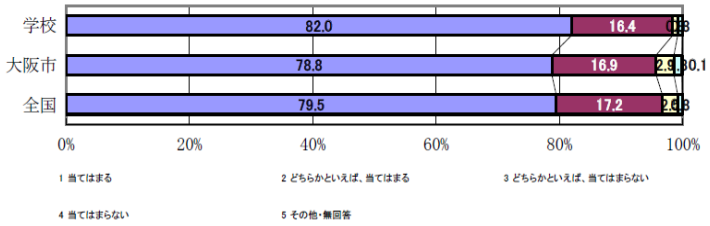
9
自分には、よいところがあると思いますか



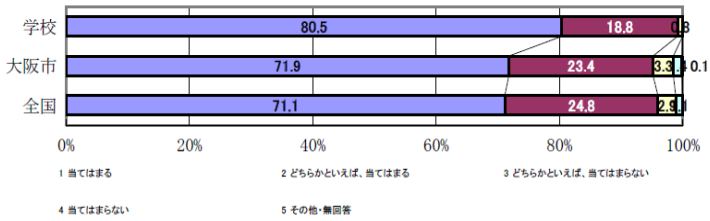
11
将来の夢や目標を持っていますか



13
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



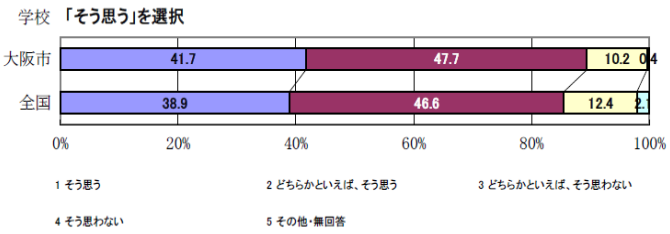
15
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



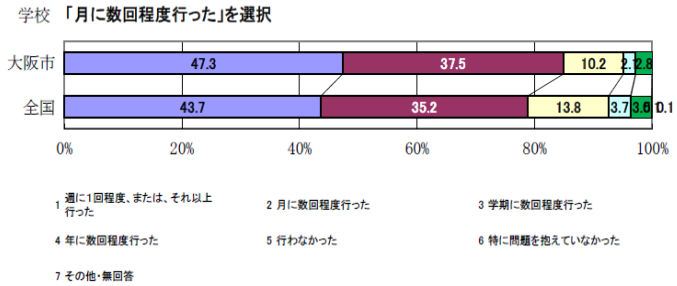
学校質問より

質問番号
質問事項

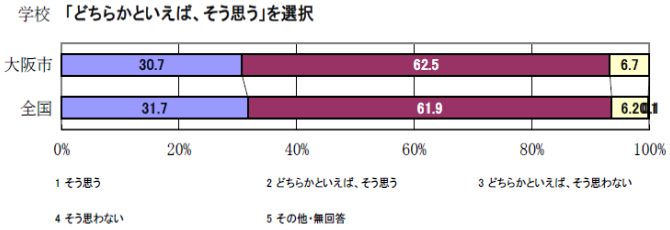
7
調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



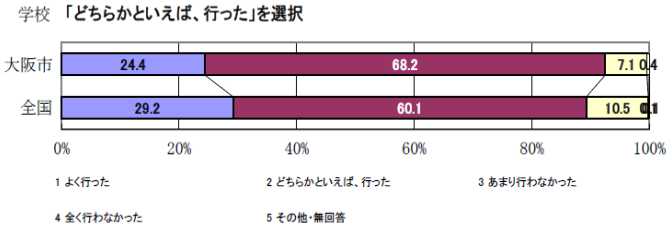
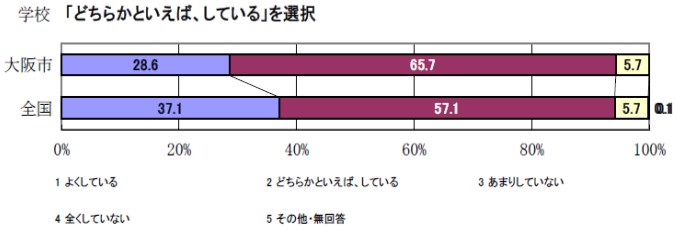
9
前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか



28
調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか



33
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか



37
調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか